

『火は消した？ いつも心に きいてみて』



秋の火災予防運動 (H16.11.9~11.15.)

11月は秋の火災予防運動が実施されます。今回は、『火は消した？ いつも心に きいてみて』を統一標語として、11月9日(火)~15日(月)の期間実施されます。

【重点項目】



(1) 消防法改正を踏まえた住宅防火対策の推進
消防法第9条の2の改正により住宅に住宅用火災報知器の設置の義務付けが平成18年6月1日から施行されます。



煙感知器 (乾電池式)

(2) 放火火災・連続放火火災予防対策の推進
平成16年上期の火災状況

- ・発生件数 336 百件 (前年 106%)
- ・死者数 1180 人 (前年-166 人)
- ・損害額 約 1 千億円 (前年比 122%)
- ・出火原因 放火+放火の疑い 76 百件 全体の 23%



(3) 消火器の適切な維持管理の推進
エコマーク付き消火器の普及
老朽消火器の破裂事故防止 (蓄圧式なら安心)
消火器の不良点検業者による被害の対応



不良業者に対する裁判例 <http://www.fdma.go.jp/html/life/caution.html>
H15.3.4 神戸地方裁判所 不適切点検業者に対し、点検の際持ち出された消火器の引渡し又はその対価を求めたもので、事業所の主張が認められたものです

震災対策のための参考情報

このたびの新潟中越地震により被害を受けられたみなさまにお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

平成16年9月5日紀伊半島沖で発生しました M6.9 の地震以降弊社のお得意先様から震災対策についてのお問い合わせを頂いており、震災対策のための参考情報を記載します。

(1) 近畿地方の最近の地震の状況 マグニチュード3以上の地震の発生件数 (※2004年は1~10月)

	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	合計	年平均
和歌山	38	48	56	42	44	51	279	47
内 M4 以上	5	4	8	4	2	25	48	8
兵庫	14	9	兵庫北部地震 88	3	6	6	126	21
内 M4 以上	0	3	22	0	1	2	28	5
大阪	4	2	0	2	1	4	13	2
内 M4 以上	1	0	0	0	0	0	1	0
三重	13	7	4	5	6	4	39	7
内 M4 以上	1	1	1	0	1	1	5	1
奈良	3	5	3	14	5	2	32	5
内 M4 以上	1	1	0	2	0	0	4	1
滋賀	2	3	2	6	5	3	21	4
内 M4 以上	0	0	1	2	1	0	4	1
京都	12	22	9	8	6	3	60	10
内 M4 以上	2	2	2	1	2	0	9	2
合計	86	96	162	80	73	73	570	95
内 M4 以上	10	11	34	9	7	28	99	17

(2) 震度とマグニチュード

震度とは、ある地点での、地震による揺れの度合いを大きさを分類したものです。

0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7 の10段階 「気象庁震度階級」



阪神淡路地震
新潟中越地震

マグニチュードは地震の規模を示す値です。1935年にアメリカの地震学者リヒターが考案しました。

M1~3 (微小地震) M3~5 (小地震) M5~7 (中地震) M7以上 (大地震)

(3) 非常用備蓄食について

非常食を選択する上で、保存性・簡便性・可食性のポイントが重要になります。

保存性 = 保存期間の長さや、品質の安定性、収納性、荷崩れなどに対する耐久性、配給時の簡便性

簡便性 = 調理不要・容器不要・用具不要・知識不要・食器不要 “そのまま食べられる”

可食性 = 食べ易さ・対応性 (年齢を問わず食べられる等)・一般性 (続けて食べても飽きない等)

備蓄の必要量 = 成人1人当たり 2,000kcal/1日を3日間分を目安に備蓄を行う。

『第6次改定日本人の栄養所要量について』(厚生労働省平成11年)より

事業所での備蓄量は、震災復旧人員などを想定し必要量を算出されているところもあります。

震災対策の備蓄資機材は、非常食の他、排便の処理材、救出活動のための資機材、救急活動のための資機材など考えられますが、各々の事業所で想定されている震災時の対応策によって必要なものが違ってくと存じます。資機材についてのご質問などがございましたら、弊社営業担当者までお申し付けください。



『暁光』 志賀高原